

ホソミイトンボ

Aciagrion migratum (Selys)

トンボ目イトトンボ科

石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅰ類

国カテゴリー なし

選定理由

日本海側での分布北限に近く、県内で2頭確認されたのみで、最近10年間は発見されていない。

形態

夏型は腹長24~25mm、後翅長15~17mm、越冬型は腹長28~31mm、後翅長18~22mmの細長いイトトンボ。越冬型は淡褐色で、成虫で冬を越して春に鮮やかな青色に変化する。

国内分布

西南日本に多く、日本海側では福井県の所々に生息し、富山県では発見されておらず、新潟県で1例の報告がある。

県内分布

金沢市小立野地区での1966年の1オスの採集例と1987年の1メスの確認例があるだけで、発生池は不明。

生態

夏型は7~9月に活動し、越冬型は8月中旬から出現して秋まで草原などで摂食期を過ごす。成虫は越冬すると成熟し、体色も変って生殖活動に移る。産卵は、池沼の植物茎に単独または連結態で行なわれ、成虫は6月末には姿を消す。夏型と越冬型の生ずる原因はまだ不明。幼虫は平地~丘陵の抽水植物の多い池沼で育つ。

生息地の条件

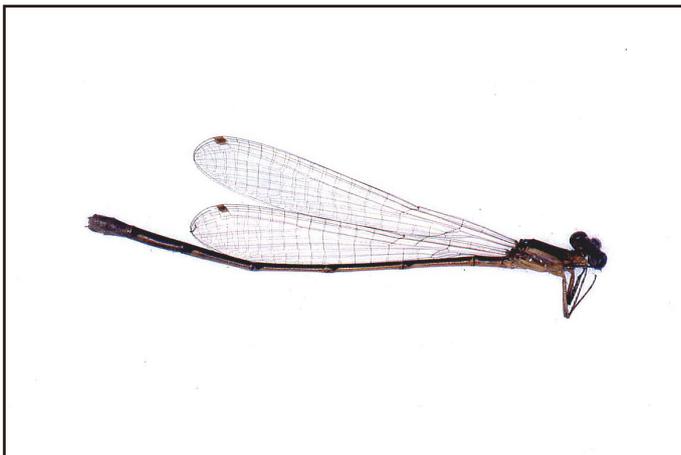
平地や丘陵のヨシなど抽水植物の多い池や沼。農業や廃水の影響がなく、堤防がコンクリートや防水シートでおおわれず、あまり深くはなくて、夏でも干上がらないこと。付近に摂食や越冬に利用できる林野のあることも重要である。

生存の危機

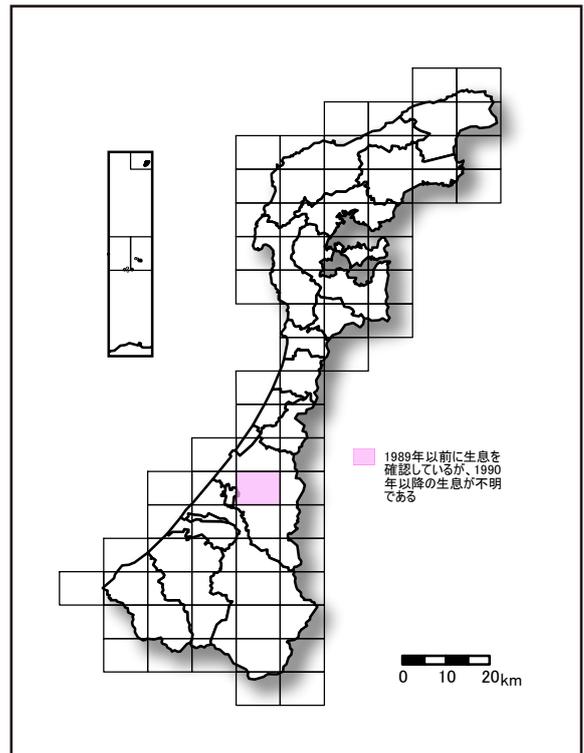
本県では特に個体数が少ないので、平地の池沼の埋立てや汚染、付近の開発などが今後の定着に影響すると考えられる。ブラックバスやブルーギルの移入も、生存をおびやかす。(A, B)

参考文献

武藤 明 1998. トンボ目. 石川県の昆虫: 49-57. 石川県自然保護課.



標本提供者: 武藤明



県内の分布